

令和2年度学校評価実施計画

学校名 大分県立佐伯支援学校

前年度評価結果の概要	・県内の主幹教諭を中心に作成されたカリキュラム・マネジメントのガイドブックを基準に、達成指標を設定しK会議を通して学校教育目標と学部目標、指導内容のつながりを全職員が理解できた。また、生活単元学習において指導内容系統表を作成し学部間のつながりを明確にした。また保護者参加型の防災学習を行い安全安心の意識を高めることができた。
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
地域でたくましく、個性豊かに生きる人間の育成	1 学校教育目標と教育内容、指導方法と学校評価のつながりの完成 2 特別支援学校教員の働き方改革の実践	1 基本的な考え方の完成と、校訓を意識した授業改善 2 時間管理ができる働き方改革

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
基本的な考え方の完成と、校訓を意識した授業改善	(1)年度末のカリキュラムマネジメント推進チェックリストを用いたアンケートで、3-①「私の学部の年間指導計画は、学校教育目標や学部目標を踏まえ、幼小中高の系統性を考慮して、目標の達成に必要な教育内容が配列されている」の項目においてできているまたはどちらかといえばできていると回答した教員100%(職員アンケート) ※H30年度(60)% R1年度(70)%	新学習指導要領に対応した「 <b>基本的な考え方</b> 」の完成と活用	①生活単元学習の「基本的な考え方」を活用した「風の子運動会」の実施と評価(4・5月) ②生活単元学習以外の「基本的な考え方」修正に向けた、「基本的な考え方」の使用マニュアル作成、及び本校独自の取組がわかりやすい様式の変更作業(PLを中心に) ③各学部での修正作業(6・7月) ④系統性の観点から教科領域担当者による「基本的な考え方」の改善(7月)	PL:教務主任・研究主任 SL:主幹教諭・学部主事
	(2)年度末のカリキュラムマネジメント推進チェックリストを用いたアンケートで、1-②「私は、本校の学校として育成を目指す「幼児児童生徒像」について説明ができる」(理解できたか)、3-③「私は幼小中高の系統性や各教科等や自立活動の目標、内容との関連を意識して、日々授業を行っている」(実践できたか)の項目において、できるまたはどちらかといえばできていると回答した教員100%(職員アンケート) ※1-② H30年度(44)% R1年度(61)% ※3-③ H30年度(64)% R1年度(61)%	新しい校訓「 <b>元気に、かがやく、佐伯人(さいきびと)</b> 」を意識した授業改善	①校訓を意識した授業(学校教育目標との関連の明確化、担当児童生徒に対しての具体的な姿の作成、授業における校訓を意識した授業改善のポイント)の共通理解(8・9月) ②特定授業における校訓を意識した授業の実施及び改善(授業ミーティングや模擬授業など活用した事前準備)(9・10月) ③互見授業を活用した校訓を意識した授業の実施及び改善(11・12月)	PL:研究主任・教務主任 SL:主幹教諭・学部主事
時間管理ができる働き方改革	(3)自己の勤務時間管理ができる教員として、退庁後の残業時間を月平均11時間30分以内にする。 ※R1年度(11時間55分)	勤務時間内での勤務( <b>タイムマネジメント</b> )を意識した <b>業務内容・時間の選択と集中</b>	①退庁時間を意識するために毎日19時前に退勤を促す放送を流す。 ②月1回の衛生委員会において、毎回業務削減案を最低一つ協議する。 ③繁忙期以外の時期について、全職員が休養を取りやすいように衛生委員会委員で声掛けする。	PL:衛生管理者・管理職(衛生委員会)